

第204回 番組審議会

1. 日 時 平成23年7月12日 (火) 12:00～
2. 場 所 ホテルメトロポリタン盛岡 ニューウィング 3階「星雲」
3. 委 員 委員総数 12名
出席委員数 6名 (欠席委員数 6名)

○ 出席委員 (敬称略)

中村 慶久 (委員長)

—以下50音順—

久慈 浩介

菅原 正二

藤原 保雄

村上 幸子

吉田 浩次

○ 会社側出席者 (7名)

佐藤 滋樹 (代表取締役社長)

小原 忍 (専務取締役)

藤澤 利憲 (常務取締役)

前田 秀男 (取締役編成技術局長)

藤原 銀司 (取締役営業局長)

田山 裕明 (編成技術局次長兼編成部長)

高橋 聡 (めんこいエンタープライズ 制作部 部長待遇)

○ 事務局 一戸 俊行

4. 議 題 「わがまま！気まま！旅気分

世界遺産登録記念 平泉 浪漫紀行」

平成23年7月2日(土) 13:00～14:00放送

5. 議 事 概 要

今回は7月2日に放送した「めざましテレビ公認、わがまま！気まま！旅気分 世界遺産登録記念 平泉浪漫紀行」審議しました。出席した委員からは「平泉の世界遺産登録が決まった直後の放送で、非常にタイムリーな番組だった」、「リポーターのさくらはさんは爽やかで大変好感がもてた」、「地図や料金などきめ細かいスーパーがあって分かりやすかった」など番組を評価する意見がありました。

また一方で「これまでの旅番組作りと同じで、新鮮さが感じられなかった」、「日曜日のお昼の番組としては重いという印象があった」などの意見がありました。

6. 議事

○事務局

それでは、ただいまより第204回番組審議会を開催致します。

本日は、事務局の村田が都合で出席できないため、総務局長の一戸が担当させていただきますので、よろしくお願い致します。

今回の議題が7月2日の番組となったため、ご案内が遅れてしまったことをお詫び申し上げます。

本日ご欠席の委員は、三浦副委員長、斎藤純委員、斎藤雅博委員、東海林委員、八木橋委員、役重委員の6名です。

今回の議題は7月2日に放送されました「めざましテレビ公認、わがまま！気まま！旅気分 世界遺産登録記念 平泉浪漫紀行」です。本日は、編成技術局次長兼編成部長の田山とディレクターを務めました、めんこいエンタープライズの高橋が出席しております。

それでは、中村委員長よろしくお願い致します。

○中村委員長

それでは議事に入ります。田山さんと、高橋さんから説明をお願いします。

○田山

私からは「めざましテレビ公認 わがまま、気まま、旅気分」という番組の位置づけ等について簡単に説明させていただきます。何回かこの番組審議会でもご審議いただいておりますので、既にご存知の方も多いと思います。この「わがまま、気まま、旅気分」は、そもそもBSフジが立ち上がった際に、地上波のフジテレビ系列の各局が制作した番組を、BSを使って全国発信できる、そしてBSフジのソフト不足にも貢献するという考えでスタートしています。しかし近年は、BSフジのソフト不足が解消し始めておまして、去年までは85分番組でしたが、今年から基本的に55分番組となり、フジテレビ系列の地上波の局が、BSフジを使って自分たちの番組を全国発信するという形になっています。去年までは系列局それぞれ年間1本が基本でしたが、今年から複数のエントリーが可能となっています。

めんこいテレビとして、BSフジに放送してもらおうということは、お金はかかりますが非常に格安です。そういう形で全国発信できるという利点を生かして、今年度は今回の7月2日の放送の他に11月と来年3月の合計3本をエントリーしています。

今回めんこいテレビは7月2日の13時からで放送し、BSフジでも同じ全く同じ時間帯の放送となりました。

本日はめんこいテレビの制作番組として、岩手の視聴者からの視点という事と、全国に発信する番組としての視点、双方のご意見をお聞きできればと思っております。

「わがまま、気まま、旅気分」というタイトルがつきますと、BSフジでも放送という事になります。今回はちょうど平泉が世界遺産になりまして、全国のフジテレビ系列からの注目度が高まっていることから、今回の番組につきましては、全国の地上波の放送局でも放送できるように「わがまま、気まま、旅気分」というタイトルを外しまして、改めて若干の編集をして再編集版を作っております。岡山をはじめ系列の数局から放送したいという打診をいただいております。番組の内容等についてはディレクターの高橋聡から説明させていただきます。

○高橋

今回の番組は、7月2日世界遺産登録決定の翌週の放送ということで、絶好のタイミング

となりました。実は制作時のことですが、BSフジへの素材の搬入期限がありまして、その時点ではまだ正式登録前ということでした。万が一の場合に備えて、ナレーションを一部差し替えるとか、世界遺産というスーパーを入れている部分を削除するといった作業も念頭に置いて制作しておりました。結果的には登録になりましたので、何の作業をすることなく無事そのまま放送できた次第です。

今回の番組はBSフジで全国放送というのが前提ですので、平泉を全く知らない方にも理解してもらえるような構成、演出を心がけたつもりです。具体的には、東京から来る場合は東北新幹線で一関まで来て、そこから東北本線に乗り換えて平泉に入るというアクセスを紹介しました。また、旅人としてタレント・女優として活躍している さくらさんを起用しました。さくらさんの起用には、あまり歴史に興味がない若い世代の方でも、平泉は楽しんで旅ができる場所であるということを知りたくて告知する狙いがありました。

今回の番組制作を通じて感じたことは、平泉に対する理解は年代によっても違いますし、また地域によっても大きく異なるものだということです。今後も平泉に関する番組は数多く制作することになると思いますが、決まりきった説明や演出に固まらずに、その番組の視聴対象や視聴エリアを考慮した番組作りを、心がけていきたいと思っています。

○中村委員長

なかなかタイムリーな番組であったと思いますが、それでは委員の皆様からご意見、ご感想をうかがっていきたくと思います。

藤原委員からお願いします。

○藤原委員

今の制作意図をうかがって“なるほどなあ”と分かりました。全国向けの部分もあって、分かりやすく伝えなければならないという意図を含めての番組構成でした。私もそのように受け止めました。

前回の番組は若い女性をターゲットにしたものでしたが、今回は本当にお年寄りから子供まで、あるいは県民、県民以外の方に非常に分かりやすく伝えてくれた番組で良かったと思います。震災以降、気持ちが晴れなくて、そんな中でこうしたビッグニュースが飛び込んで来て、県民も勇気もらったのではないかなというなかで、非常に良いタイミングだったと思います。

内容についてですが、さくらさんという女優・タレントの方は、好感度の高い人で、お年寄りから子供まで親しみやすいタレントさんを選んだなという印象を受けました。

前半部分が雨だったのですが、あれは“うまいなあ”と思って、雨の日を選んだのかと思いました。非常にしっとりした雰囲気でした、たまたまでしょうか？雨を狙ったのでしょうか？（たまたまです）そうですか、良かったです。「五月雨の降りのこしてや光堂」の句のところも、ちょうど傘をさしながらになって良かったです。私は個人的に義経堂のところが好きです。あそこのシーンはちょうど晴れていて、これまた、たまたまですか？良かったです。

全般的には、こういう極めてうっとうしい時代の中で、爽やかな番組を作っていただいたという事に尽きると思います。ただ一つどうしても違和感があるのは、食べ物屋さんが必ず出てくることです。これもたまたまなのでしょうか、それとも意図的？それは好みですからね。お餅屋さんとかを、いい情報だと受け止める方もいらっしゃるかもしれません。個人的にはちょっと“うるさいな”という印象も受けました。

ベロタクシーとか、写経をする場面では値段も表示してくれました。ベロタクシー400円、鐘を打つのは500円とか、あれはいい情報だと思いました。目配り、気配りがきいた構成だと思いました。

今後も震災報道と平泉関係の番組は増えていき、繰り返し放送されると思います。どうか引き続き、平泉、あるいは県内全体の観光を取り上げた番組も作っていただければと思います。

○中村委員長

菅原委員をお願いします。

○菅原委員

今日はなるべく平和にいきたいと思います。この番組を7月2日のオンタイムで見た人と、僕のように昨日焦って見てきた人ではちょっとタイムラグがあるわけです。撮影時にはまだ世界遺産登録が決定していません。その問題がひとつある。7月2日にオンタイムで見た人と私とでは多少印象が違うような気がします。今は「めでたし、めでたし」というムードでそれは非常に結構ですが、登録になって「めでたし、めでたし」の今の状態で番組を見ますと、ちょっと静か過ぎるわけです。まず人がいない。僕はこの撮影の頃に駅前の芭蕉館でわんこそばを食べていました。そこの親父さんとタバコを吸いながら、「誰も来ないんですよ」

と親父さんが言っているのを聞いていました。今度、登録になったら、あっという間ですよ。数日間の違いで。ですから撮影時は誰もいない時期です。世界遺産の番組の「ぶらり、ふれあい紀行」みたいな番組を見ると、まず地元に住んでいる人たちの普段の賑やかさとか、それに観光客が遠景に映っています。今回、それが見事にならないというのが素晴らしい番組でした。見事にならない！先ほど、藤原委員がおっしゃいましたが、出演した人だけ、毛越寺の甘酒を出したおばさんとか、それしかない。

どう言っているのいいかわかりませんが。韓国料理屋をなぜ選んだのかというのもちよっと違和感がありました。駅前の芭蕉館のわんこそばの方が絵柄がいいような気がしました。

何と言ったらいいいのか、いいと言えればいいですよ。静かな広いお庭といいますが、要するに何も現物がないわけです。下手するとそれもいいなと言うのかもかもしれませんが、ビジュアル的には圧倒的なものがなさ過ぎるのが、今後の課題ではないでしょうか。CGでいくら再現しても行った人は見られないし、説明文章はどうしても説得力が弱いと思います。これはこれで放送日が7月2日になっていますからいいとして、今後、どのようにもっていかばいいのか、受け入れ態勢が非常に気になります。

一関市のシャッター街の悲惨な状況を見ていますので、こういう機会にいろんな事を整備して頑張らなければ、今ここに観光客にどっと来られても、難しいですね。一関は実際問題、新幹線で降りてバスが待っていて平泉に行ってしまう。ですから今までと同じ感じだと思います。花巻温泉や盛岡に泊まる。一関はただ降りるだけです。観光客のことは大した問題にはならないと思います。

今後、平泉を本当に世界に発信していくには、相当心構えを頑張らないといけないでしょう。まず、食べ物屋さんから始まっているいろんな事が大変だと思います。だから、さくらさんも「広々としていい」とか言うけれども、裏を返すと少し苦し紛れに作ったという感じも受けます。無いものを探して撮るわけで、普通は撮りきれないほどあるものが世界遺産で、そのほんの一部を紹介します。今回は洗いざらい探して池を撮ったりしたけど、あれ位の池はヨーロッパの富豪の家に行ったら庭にあります。整備の仕方も金色堂のサイドが鉄筋コンクリートというのは大間違いです。木造にしないではいけません。あの上から木造で囲んだらいいんです。

いろんな芭蕉の句が出ましたが、僕は前から言っていましたよね「降りのこしてや光堂」とか「兵どもが 夢の跡」これはすごく正しいような気がしています。そこも踏まえて奥の細道の路線も考慮しないと今後大変になると思います。いろいろお疲れさまでした。大変だ

ったと思います。

○中村委員長

ありがとうございます。地元ならではの厳しいというか、むしろ平泉を今後どうしようか？というところまで広がりをもったお話でした。

では村上委員お願いします。

○村上委員

まず、お疲れさまでした。6月26日に正式登録でしたね。私は7月2日に番組をオンタイムで見ました。ちょうどお昼時間でした。この番組が審議会にかかるのは知っていましたが、どうしても見てしまう内容とタイトルでした。制作のタイミングと登録、放送日のタイミングが全部、微妙なところで合ったのだなと思いました。最初から放送日は決まっていたのですね。他の局も特別番組をやっていましたが、旅情報番組として作っている姿勢は番組の趣旨としてはよく分かりました。それを最初から最後まで貫いていたというのは良かったと思います。

翌日の7月3日に平泉に行きました。仕事だったのですが4時からの中尊寺の記念式典を見ました。あの時は動員もかかっていたようですが、4時過ぎ前後にあれだけの人が中尊寺にいるのは今まで見たことがありません。日が長いとはいえほとんど夕方、蒸し暑い日でしたが、やはり凄いなと思いました。菅原委員がおっしゃいましたが、人っ気のない平泉とは全然違って、月見坂もすごくたくさんの方が歩いていてさすがだな、と思いました。そういう事はこれから夏にかけてあると思います。

「本当に地元の人でも期待している」と番組でも言っていましたが、私もそうなければいいなと思いました。平泉には久しぶりに行きましたが、車で行っても電車で行っても何か特別な空気が流れているような感じがする所だと思います。すごくスポンとひらけたところがあって、そこから周りの山は遠くに見えますが、北上川もすごくひらけています。私も高館の義経堂から見る景色がとても好きです。あそこは選ばれた場所だという感じがします。それをいろんな物で見せるのはなかなか難しいでしょうけれども、ベロタクシーとかゆっくり歩きながらの紹介の仕方があったので、そういう空気感がすごく伝わってきたように思います。

世界遺産の趣旨が浄土思想とか平和ですとか、そういった思想的なものがその基になっています。平泉は、藤原四代の地方での栄華ですとか、義経伝説とか、松尾芭蕉とか歴史的な

スペクタクルな話題が多いと思います。それを世界遺産として思想的なものも重視して伝えていかなければいけません。テレビ番組とか雑誌などで伝えることが、かえってとても難しい所ではないかと改めて思いました。うっそうとした木立の中を行くとすごく気持ちがいいですし、金色堂の圧倒的な存在感もあります。逆に地元のメディアがそれを伝えていこうとした時に、これからいろんな難しい点が出てくるのではないかと思います。

平泉という特別な場所を、地元の人が誇りに思っています。この間も子ども達が未来に伝えるという宣言を知事と一緒にやっていました。世界遺産に決まった後の伝え方はこれからになってくると思います。伝統やいろいろな文化、秀衡塗りも新しいデザインで作っていますし、今までと違った見せ方をしてくると思っています。世界遺産というのはとても大事なところだと思いますが、その後、平泉から新しいものが生まれていくというものも私は見てみたいと思います。また、いろいろな情報を伝えてくれる番組として楽しみにしています。

○中村委員長

久慈委員をお願いします。

○久慈委員

新幹線で行くという所からちゃんと教えてくれて良かったと思って見ていましたが、やはりそう考えてやられたんですね。全国で見てもらうのであれば、平泉は僕らはあの辺と分かりますが、他所の人はなかなか分からないですよ、そこを伝えて最初スタートしていただいた事は良かったと思います。地図がありました。歩いて回って、地図があって、旅番組ということで「わがまま、気まま」の切り口ですから、今回はすごくいいと思いました。

私も中尊寺を久しぶりにテレビで見た時は、人で溢れた中尊寺、平泉だったので、むしろ静寂の平泉の方が映像として価値が高いかなと思っていました。撮影が登録の前だと聞いていたので、おそらく人のいない時だったのでしょうか、逆に神々しさというか、そういうものを表現できていました。今はすごく人がいっぱいで大変だと思います。むしろあの形でも良かったのかと思っていました。

王道中の王道の紹介の仕方でしたが、今回のこの番組ではそういったやり方でいいと思います。今後、各局みな平泉特集をいろんな形でやってくると思います。この番組での平泉の取り上げ方は、王道中の王道でいいのですが、各局が今後いろいろと取り上げるなかで、これからは何か右斜め下から特集するとか、ちょっと変化球的なものを別の番組でぜひやって

いただければ、めんこいテレビらしくていいのではないかと考えています。どこかのタイミングで王道中の王道の旅番組からちょっと違う目線で、例えば弁慶の目線でとか、やってみると面白いのではないかと考えています。ぜひ、次の番組作りに生かしていただければと思います。

○中村委員長

吉田委員をお願いします。

○吉田委員

番組を見終わって、最初にしたことは、物凄く分かりやすい番組だったという印象が強かったことです。千葉アナウンサーの解説が非常に平易な言葉で実に分かりやすい。改めて歴史を学ぶことが出来ました、とても良かったです。以前に平泉を取り上げた番組審議会があった記憶があります。その時はやたらめったら難しい専門的な取り上げ方をしていました。やはり情報番組で取り上げるものについては、分かり易く気楽に優しいものを視聴者は求めると思います。そういう意味で見方からすると非常にいいなという感じでした。

それから全体の流れについてですが、中尊寺の金色堂から始まって毛越寺、そしてグルメあり座禅の体験とかさまざまな体験がありました。確かに構成上はバランスの取れた非常に内容の濃いものだったのですが、何となくガイドブックのご紹介といったような当たり障りのない感じで、ちょっと味付け、何かひとつの部分にもう少し特化した味付けの部分になかったように思います。番組全体がサラッとしていたという印象を受けました。これからは深堀をするようなものもあっていいのではないかと考えました。

さくらさんというタレントの起用も良かったです。ですが、場合によっては2人ぐらいのリポーターの掛け合いで楽しく賑やかにやるというのも一つの方法なのかな、という印象もありました。

番組の中で気になったことは、見る側からしますと、ましてや全国というレベルからしますと、世界遺産となると大変な期待感で見るとは思います。そういう意味では自然の景観、美しさで「行って見たい」という感じで一番に画面を見ているわけです。柳之御所の辺りだったと思います。何となく電線や民家が映っていた部分がありました。あのような画面は、見る側からしますと「何だこれは」という感じになります。これからは映像の撮り方は非常に大事だと思います。できるだけそういう部分は映らないような角度から撮るとか、それなりに

世界遺産としての価値を全国に発信するわけですから、そういう配慮が必要なのではないかというのが気になった部分でした。

一番最後に さくらさんのまとめのナレーションがありました。ああいうものは番組の質を高めます。非常にそういった意味では良かった。いずれにしてもまとまりのある素晴らしい構成であったと思います。

○中村委員長

私も見終わって久々に旅番組として良くまとまった、非常にいい番組だったという印象を持ちました。地元制作らしい押さえる所をきちっと押さえた番組だったという感じがしました。惜しむらくは、手法としては他の旅番組と似たような手法なので、その辺で味付けというか、もう少し何か新しい手法を導入できないのか、という感じもありました。大変分かり易くて「行って見たい」という気持ちを起こさせるような番組ではないかなと思いました。

実はお恥ずかしいのですが、若い頃まだ高速道路が出来ていない頃、仙台―盛岡間を車で往復してちょうどあの辺が中間地点なので、あそこで降りて中尊寺で一休みというのをしばしばやっていました。あれ以来行っていないんです、最近を知らないのです。そういった意味で第三者的に見せていただいて、「こんな所も出来た」とか新しい所を今度の世界遺産登録のために整備された所もありました。そういう意味では大変参考になって是非また行って見たい、是非行かなければとい気持ちを起こさせてくれる番組だと思いました。

特に、私は さくらさんというタレントさんの食べっぷりの良さが印象的でした。食べる所がというご批判もありましたが、何を食べさせるのかということもあるのかもしれませんが。そういう意味では、お餅が出てくるのはありましたが。私としてはあの付近の新鮮な食べ物、前沢牛は当たり前かもしれませんが、そういったものが出てきて欲しいです。さくらさんのホテルの料理で出た前沢牛の食べっぷりとか、焼肉屋の弁慶わらじ焼きやお餅の食べっぷりの良さがありません。そんな飾り気のない彼女が見られた事は、他の全体的な案内も含めて非常に好印象で見えておりました。特に最後の漆塗りの部分はおざなりではなく、かなり真剣にやっていたのですが、あそこが印象的でした。タレントがやるとチョコチョコとやって、あとは「出来ました」と終わってしまう感じがしますが、かなり真剣に「リポーター失格ですね」と言わせながらやっているのが、逆にちょっとしゃくだなという感じがして大変好印象で見えておりました。

もう少し欲を言わせてもらいますと、地図を出してもらったのはいいのですが、移動に際

して、どれ位時間がかかるのかが良く分からなかった。歩いていけるのか、車を使った方がいいのか。その辺 wo

うまく紹介して欲しかったですね。例えば自転車で移動してもらおうとか、そういうことがあれば良かったと感じました。ベロタクシーは前にも一回出てきました。この番組では初めてですが、あそこはベロタクシーとそぐわない感じがします。昔は馬車がありました。今はないのですか？ああいうのをむしろ使ってもらった方が、平泉を盛り上げるという意味では良かったと感じました。私としては、ベロタクシーが最初に出てきたので、また同じ手法？という感じでした。後の作りが良かったので、そこに違和感を感じました。

分かりやすさという点では、中尊寺建立の趣旨のところが非常に分かりやすかったですね。千葉アナが、盛岡大学の先生が今風に訳した解説文の紹介を読んでいましたが、NHKも同じよう事をやっていて、もっと難しい事を言っていました。あれに比べると大変分かりやすい文章を使って説明していました。

今回の番組は、登録された直後という非常にタイムリーな番組として、平泉を全国に紹介する最初の番組としては、非常に良い番組でした。いい作りだったと思います。これからは平泉をどういう風にもっと掘り下げて紹介していくのか、ということが必要になってきます。菅原委員も先ほど言われたように、地元の間人としては世界遺産に登録していただいたのは非常に有難いけれども、もう少しエリアの作り方でもっと何かあってもいいのではないかと、いつも感じながら平泉を見ています。それはそれとして番組の中では、在りのままの平泉を上手に紹介して、ぜひ全国の方、世界中の方に見ていただけるような雰囲気をもった番組になるよう、これからも努力してそういう番組を作っていたきたいと思います。

吉田委員が言われましたが、さくらさんの最後の閉めのナレーションも「ああ、なるほど」という感じを抱かせていただいて、大変気分良く番組を見終わることが出来ました。今回は少し誉め過ぎの所もあるかもしれませんが（笑）大変ご苦労さまでした。

○中村委員長

私の話しはこれで終わりますが、委員の皆様、何かご質問とか、いい足りなかったことはありませんか？

それでは、事務局から欠席委員のレポートがあればお願いします。

○事務局

齋藤純委員のレポートです。

タレントさくらさんの起用が功を奏していると思いました。爽やかで、厭味がなく、幅広い年齢層に受け入れてもらえるのではないのでしょうか。ただ、旅人が女性の場合は、ナレーションを男性にしたほうがいいと思います。さくらさんの漆塗り体験はみごとでした。本当にご本人の作なのでしょう。大したものです。

平泉は「物見遊山」な観光客にとっては、期待はずれな場所かもしれません。このような番組はしつこく、何度も、手を変え、品を変えて放送することで平泉の本質について理解が浸透していくものと期待しています。テレビ岩手では星野知子さんによる番組が予定されていると聞いています。

今月はじめ、ユニセフの委員をつとめていたこともある漫画家の里中満智子さんにお目にかかったおり、平泉の話しになり、里中さんの深い理解に感銘を受けました。平泉の心強い応援団だと思った幸いです。

これからも、平泉に関する番組をどんどん発信していただきたいと期待しています。

○齋藤雅博委員のレポートです。

まずもって、今回の平泉の世界遺産登録は震災により疲弊した岩手県民の大きな希望を与えるとともに、観光を通じた経済効果にも好影響を及ぼすものであり、非常に喜ばしいことだと思います。

そんな中、早速、世界遺産登録記念として本番組を作成したことはタイムリーであり、観光促進としても期待できるものであります。内容的には平泉の主要観光資産である中尊寺、毛越寺、観自在王院跡、無量光院後、金鶏山を丁寧に紹介し、観光ポイントを的確に映像化できていたと思います。庭園を空から撮影したり、私の好きな場所である「高館 義経堂」からの眺めも入っていたのも Good でした。

また、それぞれの所在地、観光時間などのスーパーで表示があったほか、体験コーナーには価格表示もあり、視聴者には参考になったと思います。

企画段階では特に雨を予定していた訳ではないと思いますが、紀行初日の雨はしつとりとした平泉の情緒や緑が映えていて意図せぬ効果があったのではないのでしょうか。梅雨の雨に傘をさしながら若い女性が月見坂を登るのはなかなか構図だったと思いますが・・・。

金色院での写経や毛越寺での座禅の体験は平泉ならではの売りであり、中尊寺建立供養願文の大矢邦宣先生訳を文字表示したのも良かったと感じました。

という具合にいいところ満載で、申し分ないのですが、強いて言えば、食べ歩きで「ソウル食堂」を選定した基準が良くわかりませんでした。弁慶わらじ焼きという料理があるからだと思いますが、それだけでというのは理解できませんでした。

また、高野山を刺激しないようにということで異論もあるということですが、中尊寺経の大半が高野山にあるという事実は、今後の返還ということも考えればどこかに表示していても良かったのではないかと思いました。

いずれ非常に良い番組ですので、是非、フジTV系列で放送していただき、観光客誘致に結びつけていただきたいと思います。

○東海林委員のレポートです。

全体的に千葉さんのナレーションが、丁寧でしっかりとした解説になっている点が、いいところでもあり、重い点でもありという印象です。日曜日の午後の実際のオンエアの際にテレビをつけていましたが、平泉の文化遺産について気軽におさらしたい気分だったのに、昔のNHKの番組のような、ちょっと面倒くさそうな（失礼！）オープニングに、結局テレビをつけたまま別のことをしていました。

旅番組は、HNKからBSから北海道ローカルの旅番組まで、バラエティに富んだ編成があり実際によく見ますが、最近人気の番組は、MC役の役者が個性がいかされていたり、ディレクターとレポーターのやりとりがあったり、知的好奇心も満たしつつ、試験にでる旅番組（旅の最後に試験が実施される）といった笑いもあり、いつの間にかその土地の映像に惹き込まれてしまうもの。

今回の番組は、大事なことを、きちっとポイントを押さえて出してくださっているし、映像も美しいし、さくらさんはかわいいし、千葉さんのナレーションも耳にやさしいし、何も悪くないんですが、全体的に全部同じ調子で紹介されていて、無難な旅番組になってしまった印象です。番組審議会用にメモを取りながら見る番組としては良いのですが、日曜の午後に、もっと軽く、しかもちょっと知的にヒラリと平泉に行く感覚の旅番組ってできないものでしょうか？

○役重委員のレポートです。

さくらさんのナビは、自然体で素直な感じが好感を持って良かったです。初日は雨でちょっと残念でしたが、「五月雨の・・・」の句のとおり、雨の日ならではの美しさを際立たせる

ような映像が撮ればなお良かったですね。

平泉関連の番組は何度も見っていますが、今回、座禅にトライする小学生や甘酒売りのおばあちゃん、ベロタクシーの運転手さん、食堂のおばちゃんなど、地元の人がたくさん登場するのがにぎやかで良かったと思います。せっかくなので、世界遺産登録を受けて、これからの期待とか地元で取り組んでいきたいことなど、そのへんのコメントもあればよかったですと感じました。とくに小学生なんかはどうとらえているのでしょうかね。

数年前、出雲の石見銀山を視察に訪れたことがありましたが、登録後2、3年たつと観光客の入込み数はほぼ元の水準に戻っており、その後も続く維持保存対策とハード面の環境整備、地元住民の生活動線との調整など、時に相矛盾する様々な課題に自治体はせまられていたと記憶しています。そうした面では、まさに平泉もこれから正念場であり、内陸の花巻温泉郡との連携等もひとつのテーマですが、県全体で支えて行く意識と仕組みづくりが求められるのだと思います。

なお、番組では震災のことにあえてふれていませんでしたが、清衡の中尊寺願文にある一文は、いま、私たちの誰もが心を打たれ、震災に苦しむすべての人やいのちに思いを致さえるものです。

鐘の音は、世界に響き渡り苦しみをやわらげ、生きるものすべてに平等に響く。ここ奥州の地では官軍も蝦夷も、古来より多くの者の命が失われた。人だけではない、獣、鳥、魚も数限りなく殺された。この鐘を鳴らすたびに、罪もなく命を奪われしものたちの御霊を慰め、極楽浄土に導きますよう・・・

900年の時を経て、この願文がまさに東北の地の再びの悲劇にめぐり合い、傷ついた人々の心に響くことになろうとは清衡も想像しなかったことでしょう。平泉の価値を改めてかみしめ、復興へのちからとなることを心から期待したいと思います。

○中村委員長

それでは、以上で本日の議事はこれで終了とさせていただきます。

ありがとうございました。

○事務局

中村委員長、ありがとうございました。

今回の審議会の模様は7月23日（土）朝4時30分から「めんこいテレビ番組批評」と

して放送いたします。

8月は恒例により休会となります。次回は9月13日の正午より、こちらの会場での開催となりますので、よろしくお願い致します。

それではこれで番組審議会を閉会とさせていただきます。

7. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置

特になし

8. 審議機関の答申意見概要を公表した場合におけるその公表内容、方法及び年月日

* 平成23年7月13日（水） 産経新聞 東北版

岩手めんこいテレビ
岩手めんこいテレビの第
204回番組審議会（中村
慶久委員長）が12日開か
れ、情報番組「わがまま！
気まま！旅気分」について
審議した。今回の内容は世
界遺産に登録された「平泉
の文化遺産」に焦点を絞っ
た「平泉浪漫紀行」。
委員からは「平泉の文化
遺産を分かりやすく紹介
し、好感が持てた」「ナレ
ーター、構成がよかった」
などと評価する半面、「ビ
ジュアル的に物足りなかつ
た」という指摘もあった。

* 平成23年7月23日（土）午前4時30分から4時45分まで「めんこいテレビ番組批評」内で放送

* 据え置き書類を作成し、本社受付に置き一般の人々が自由に閲覧できるようにした

9. その他の参考事項

特になし